

2

人間ドック

1 調査目的

がん検診における発見がん患者の精密検査結果の詳細を把握することにより、検診の評価を行い、精度管理の維持・向上を図る。

2 調査対象

令和2年度の間人間ドックにおける胃・肺・大腸・子宮頸・乳・前立腺等の各がん検診受診者のうち、精密検査結果が「がん」または「がん疑い」と報告のあった者。

3 調査内容

調査内容は、当事業団が実施した胃・肺・大腸・子宮頸・乳・前立腺等の各がん検診における発見がん患者の精密検査結果および治療状況等とし、各がん取り扱い規約に基づいた内容について更なる詳細結果（報告）を求めた。

1] 取得方法

調査依頼先に対象者の発見がん追跡調査票を書留にて郵送し、回収した。

2] 調査依頼先

対象者の精密検査結果報告が提供された医療機関、または紹介先医療機関

3] 調査期間

初回調査：令和3年9月～10月

再調査：令和3年11月～12月

再調査は、以下の場合に実施

- (1) 初回調査の結果、転院が判明した者
- (2) 初回調査後、新たに精密検査結果が「がん」または「がん疑い」で戻ってきた者

令和2年度 人間ドックにおける発見がん追跡調査結果

令和4年1月31日現在

1 がん検診別発見がん追跡調査結果

	胃がん		肺がん ^{*1}			大腸がん	子宮頸がん
	X線	内視鏡	X線	CT	喀痰		
受診者数	6,843	2,426	9,617	697	1,137	10,297	2,683
要精検者数	437	70	99	3	2	441	28
要精検率(%)	(6.4)	(2.9)	(1.0)	(0.4)	(0.2)	(4.3)	(1.0)
精検受診者数	346	56 ^{*2}	94	2	2	306	24
精検受診率(%)	(79.2)	(80.0)	(94.9)	(66.7)	(100.0)	(69.4)	(85.7)
追跡調査数	3	5	3	1	0	5	2
追跡調査回収数	3	5	3	1	-	5	2
追跡調査回収率(%)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(-)	(100.0)	(100.0)
発見がん数 ^{*3}	2	4	1	1	-	4	0
がん発見率(%)	(0.03)	(0.16)	(0.01)	(0.14)	(-)	(0.04)	(0.00)
早期がん数	2	2	1	1	-	1	-
早期がん割合(%)	(100.0)	(50.0)	(100.0)	(100.0)	(-)	(25.0)	(-)
陽性反応適中度(%)	(0.5)	(5.7)	(1.0)	(33.3)	(-)	(0.9)	(-)

*1 最終読影の結果がん以外で要精検となった者を除く

*2 医療機関を受診したものすべて含む

*3 発見がん追跡調査前にかんと判明し、かつその詳細結果を把握できた者も含む

	乳がん	前立腺がん	腹部超音波 ^{*4}	食道がん	甲状腺がん
受診者数	3,201	1,604	10,606	9,269	411
要精検者数	169	63	291	507	25
要精検率(%)	(5.3)	(3.9)	(2.7)	(5.5)	(6.1)
精検受診者数	145	46	214	402	22
精検受診率(%)	(85.8)	(73.0)	(73.5)	(79.3)	(88.0)
追跡調査数	13	14	11	0	0
追跡調査回収数	12	13	10	-	-
追跡調査回収率(%)	(92.3)	(92.9)	(90.9)	(-)	(-)
発見がん数 ^{*3}	11	6	6	-	-
がん発見率(%)	(0.34)	(0.37)	(0.06)	(-)	(-)
早期がん数	10	2	-	-	-
早期がん割合(%)	(90.9)	(33.3)	(-)	(-)	(-)
陽性反応適中度(%)	(6.5)	(9.5)	(-)	(-)	(-)

*4 腹部超音波については、早期がん数、早期がん割合、及び陽性反応適中度は算出せず

2 まとめ

令和2年度の各がん検診精検受診率は、大腸がん検診の69.4%を除き「がん検診の事業評価に関する委員会報告書」に示されているがん検診精検受診率の許容値である70%（乳がん検診は80%）は満たしていた。大腸がん検診については、精密検査受診率が70%前後で推移しており受診率向上と重症化予防を目的として前回精密検査未受診者や当日要精検者には、保健指導の際に精密検査の必要性や精密検査受診に関しての相談の場があることの説明を行っているが受診率の大幅な改善には繋がらない状況にある。

また、今年度発見がんの中で、昨年も同部位で要精検だった受診者が5名いた。4名は昨年度精検未受診で、うち2名は今年度進行がんとして発見されている。昨年精密検査の受診が行われていれば、早期に発見できた可能性もありえることより、精密検査の重要性が再認識でき、未受診者への受診勧奨方法の検討が必要と思われた。さらに調査票記載不備等による精検未把握者を減らすため医療機関との連携を図る必要性が窺えた。